

安倍総理とオバマ大統領による日米二国間交流に関する首脳声明を受けた
日米文化教育交流会議(カルコン)委員長共同声明(仮訳)

2014年4月25日

日米文化教育交流会議(カルコン)は、2014年4月24日に開催された、安倍晋三総理とバラク・オバマ大統領による首脳会談の成功をお祝い申し上げるとともに、両首脳による交流と対話の一層の促進と拡大に関するイニシアティブを歓迎し、2020年までに日米双方向の留学生交流数を倍増させるという目標の実現に向け、あらゆる支援を惜しまないことを表明します。

日米同盟はアジア太平洋地域における平和、繁栄、安全保障、安定の礎であり、その基盤は両国民間の硬い絆です。2012年、日米両国の若い世代がお互いをより深く理解することの必要性に鑑み、カルコンは、日米教育交流を再び活性化させる方策について両国首脳に提言を行うため、教育タスクフォースを発足させました。2013年6月にまとめられた教育タスクフォースの報告書では、2020年までに日米双方向の留学生交流数を倍増させるという目標を掲げ、日米両国がこれを達成するための具体的対策を提言しています。教育タスクフォースは、両国の政府、民間、学术界の関係者と共に、この重要な目的の実現に向けて引き続き取り組んでいきます。

カルコンは、1961年、当時の池田勇人総理とジョン・F・ケネディ大統領の共同声明によって設立された官民の協働による委員会です。同会議は、日米関係の文化的及び教育的な基盤を高め、強化するよう尽力しています。50年以上にわたり、カルコンは、文化・教育・知的活動やこれらの分野における交流のための最良かつ新しいアイデアが実践的なプログラムとして実施されるよう取り組んできました。これまでの成果を基盤として、カルコンは更なる目標達成のため、交流の障壁を取り払い、連携を橋渡しする新しい取組を進めていきます。

榎原 稔
日本側カルコン委員長

ハリー・ヒル
米国側カルコン委員長